

編集室

群れない、ツルまない。社会に出ると、中大生はそうなんだよね、という声が、1月のマスコミ関係者との懇談会の席で聞かれました。

市や県職のOBの間では、大小の中大組織があるようですから、一概にいえませんが、民間企業では案外そうではないでしょうか。

私のいた新聞社でも、長いこと知りもせず、何かの拍子に「君も中大だったのか」と互いに驚くこと再三。幹部クラスにも中大卒は多いのです。でも、「中大で集まろう」とはなら

ない。

印象をスケッチすると、「慶応」は濃く、「闊」をなす趣なのに比して、「早稲田」は各人バラバラ。中大と似るけれど、こちらは「党派的なつながり」を意識的に嫌う感じですよ。もともと、早稲田卒は日ごろ「早稲田」を口にします。中大卒は自ら語らず、「聞かれれば答える」……。

〈中大の含羞〉——そう呼んで、私などけっこう気に入っているのですが、「寡黙だから」宣明へ、新しい中大のエートスが発酵してもいい。社会の第一線に巣立つみなさんの活躍に期待するゆえんです。

(広報課 田中紘太郎)

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2006

早春号

2006年(平成18年)3月24日発行 No.195

発行 中央大学広報委員会

〒192-0393

東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

広報課 ☎042-674-2146

印刷

泰成印刷株式会社

〒130-0026

東京都墨田区両国3-1-12

☎03-3631-8141